

（１）事業の実施状況について

本事業では、小・中学校教員を主対象とした「美術館活用ガイド」（ティーチャーズガイド）を作成した。それにより、教員がより積極的に美術館を活用し、子どもたちが美術館や美術作品と出会う機会を拡大したいと考えたが、具体的には、次のような点に留意した。①教員が子どもたちを美術館へ引率しようとする際起こるであろう様々な負担を少しでも軽減できる情報を提示する。②教員がほしいと思うであろう情報を提示する。③教員が自ら美術館を活用できる情報を提示する。④美術館という場を理解してもらえ情報を提示する。⑤美術館が学校へ期待する事前準備や心がまえを提示する。

冊子は、「手続編」と「活用編」の２分冊にし、来館を希望する教員がそれぞれの目的に応じ必要な情報を取り出せることを目指すと共に、美術館を活用すること自体に感じる心理的負担を軽減することも目指した。「手続編」には、当館へのアクセス、周辺・敷地内・建物内の地図、美術館ではいけないこと、入館申し込みや入館料減免申請方法などを掲載し、「一度美術館へ行ってみようか」と思い立った教員が気軽に利用できる冊子にした。「活用編」には、当館の歴史、主な所蔵作品、活動のヒント、事例・資料の紹介などを掲載し、「より充実した滞在にしたい」と希望する教員に役立つ冊子とした。

本冊子は、岡山県内すべての小学校、中学校、養護学校や教育関係機関に配布すると共に、その他の地域の学校から来館希望があった際にも有効活用したいと考えている。

（２）地域との連携について

本事業は、他団体との共同事業ではない。しかし、地域との連携の上に成り立っていると言える。

当館では、かねてより近隣の幼稚園・保育園、学校と連携プログラムを実施したり、多くの学校からの来館を受け入れるなどしてきた。そのようなこれまでの活動の経験や、それらを通じ出会った教員からいただいた現場の声が、この冊子製作の基になっている。また、地域の教育機関・公共施設等からの情報提供などの協力もあった。

本冊子は、岡山県内のすべての小学校、中学校、養護学校へ配布するもので、それにより地域との連携がより深まることを期待している。

（３）成果物について

本事業が冊子製作であるため、事業の実施状況に記載。

（４）参加者の反応

今後、配布先の学校などで、広く活用されることを期待したい。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

本事業の冊子製作に当たり、心がけたことは次のとおりであり、効果を期待している。

本冊子はそのタイトルも「大原美術館へ おいでよ!」「大原美術館で やってみようよ!」と、当館を利用することを前提としているが、当館のみならず美術館・博物館全般の理解・利用・普及促進を視野に入れ作成した。本冊子や当館への来館がきっかけとなり、各学校が近隣の美術館・博物館へも目を向けることを期待する。

更に、本事業を通し、近隣の教育機関・公共施設、また全国の美術館・博物館から、情報提供などの協力や支援を受けたことに感謝している。その成果である冊子を、協力機関をはじめ全国の主要美術館・博物館へも送付し、活用されることを期待している。

(6) 新聞記事等

現在のところなし